MODEL MACHINE Detail Check

GARAGE TOTAL

FAIRLADY Z

ストリートを楽しむためのつくりこみ

TO4Zタービンを使いシングルターボ化を敢行

全身ブラックのボディカラーに、おなじくブラックのレーシングストライプが入れられたZ33。製作したのはガレージトータルで、代表の小里サン自らがほしいと思うカタチを具現化したという純然たるストリート仕様だ。「チューニングにはレースのようにレギュレーションなんてないですよね。オーナーがじぶんの好きなように自由にイジッていけばイイ。このZ33もそういう気持ちで、思いつくがままにつくったんですよ」と、小里サン。

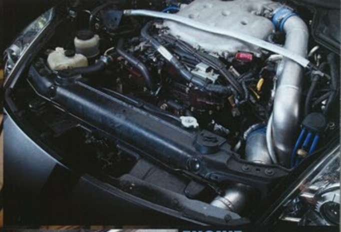
まず、エンジンはホイールスピンしちゃって前に進めないというくらいの大パワーを求めてターボ化。S30時代からずっとフェアレディZを乗りついできた小里サンのなかに、Z＝ターボという図式が組みあがっていた、というのも理由のひとつだったりする。

ターボを搭載するにあたっては、各メーカーがラインアップにかかげる既存のボルトオンターボキットは使用せず、究極のパワーを求め完全オリジナルで製作。チョイスしたタービンはTO4Zだ。同時にEXマニやパイピングも開発し、美しいレイアウトに仕上げている。

あわせてエンジン本体も徹底強化。腰下にHKSのターボ用95・7φローコンプ鍛造ピストンとI断面コンロッドを組みこみ、ヘッドにはバルコンプラスVカムキットPRO（IN／EX264度）をセット。燃調や点火時期のセッティングにはF-CON Vプロを使い、最大ブースト圧1・3kg／cm^2時に520ps／68kgmのパワー&トルクをマークする。

もちろん、冷却系にもキッチリ手が入れられていて、銅3層ラジエターやGT-Rサイズのインタークーラーのほか、オイルクーラーもバンパー開口部左右にツインで装着。また、それだけではクーリングキャパがたりないということから、STIのウォータースプレータンクとスプレーを流用していることもポイント。以前はインタークーラーとラジエターの両方に水を噴射していたが、現在ではラジエターにふたつのノズルをむけている。制御にはミノルインターナショナルのファンコントローラーを使っていて、水温が90度を超えたときにのみ噴射するシステムとされている。

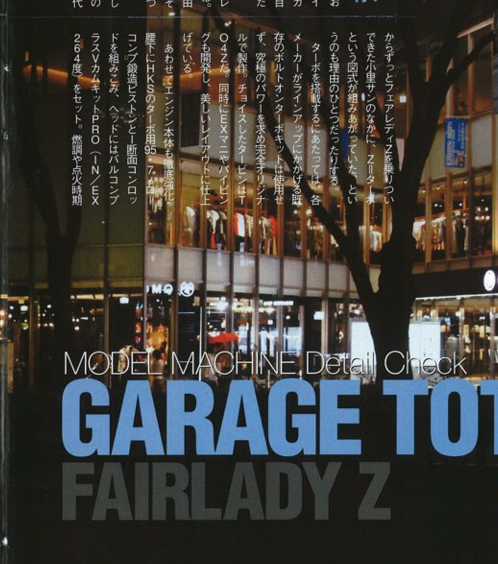
そのほかエクステリアやインテリアをふくめ、小里サン理想のストリートチューンドに仕上がっているZ33。ユーザーにとっては間違いなく“憧れ”であろう、理想的なパワーチューンドの完成形だ。



ENGINE

上：搭載しているVQ35DEは、インテーク側にのみ可変バルタイを採用している初期モデルで、インマニは形状変更された35thアニバーサリー以降のものを流用している。燃料関係はメインインジェクターをサードの800ccに交換し、フューエルポンプやフューエルレギュレーターもおなじくサードのものにしている。

左：タービンは左バンク側に取りつけられていて、オリジナルのEXマニはそこで左右バンクの6本が集合する形状になっている。取りつけにはオイルパンのほか、いくつかの加工が必要だ。



EXTERIOR

フロント&リヤバンパー、サイドステップ、ボンネット、フェンダー、GTウイングはすべてイングス製を装着。リヤゲートはエスプリのFRP製で、ミラーはガナドールだ。また、ボディカラーはメルセデスベンツ純正色のオブシリアンブラックにオールペンされ、その上にブラックのレーシングストライプが入れられている。ストライプは、ハーレーダビットソンに影響を受けてのことだ。

SUSPENSION & BRAKE

現状で装着されているダンパーはレーシングギヤベースのガレージトータルオリジナルで、フロント14k、リヤ12kのスプリングをセット。ストリートメインでサーキット走行までを視野に入れた特性になっているけど、走るステージによってはサスペンション交換を行い、ドラッグのばあいはアーム類も交換し、そのつどベストなセットアップをつくりあげている。ブレーキはキャリパーがブレンボでローターがRddとなり、フロントが8ポット&380φで、リヤが4ポット&355φだ。

TIRE&WHEEL

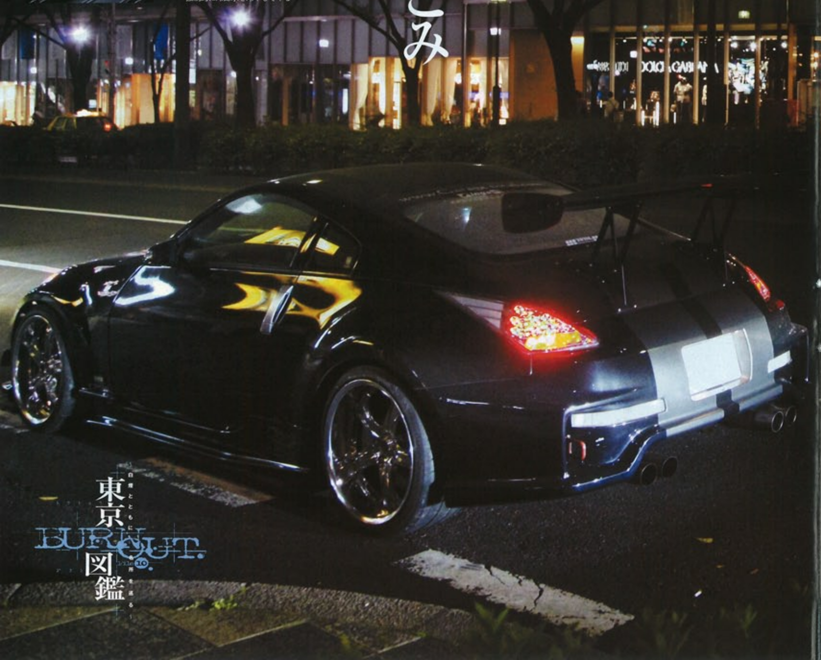
街乗り時は写真のボルクレーシングGT-A（F19×9.5J　R19×11J）に相応のタイヤをセットして使用。サーキットなどを走るときには、ボルクレーシングTE37（FR18×10.5J）にポテンザRE55S（FR265/35-18）を組みあわせている。

EXHAUST

EXマニをふくめ、エキゾースト関係はすべてワンオフ。マフラーのレイアウトがツインになっているのは1本がタービンから、もう1本がウエストゲートからのびているからで、性能面というよりはビジュアル面やシャレをきかせてのことだ。

INTERIOR

ゴチャゴチャした室内を避けるため、水温や油温といったデータの管理はF-CONナビゲーターで行い、追加メーターの装着は避けている。ナルディのステアリングのスポーク部には、エンジンルーム内のカムカバーとおなじくラップペイント塗装がほどこされる。また、シートは運転席、助手席ともにブリッドのマキシムだ。

STIのウォータースプレータンクは、トランクルーム内に設置されている。サーキット走行時など必要なときにはここに氷水を入れてラジエターに噴射。強制的に冷却水を冷やしてやる